

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況（振り返り）」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に 要する期間
1	35	災害時を想定し避難訓練を行っているが、実際に職員が一人の時に起きた場合など不安がある。	いつ災害が起きても、迅速に対応できる心構えしておき、各職員がどのように避難したらよいかを把握する。	・被害時や火災等があった際の緊急マニュアルを作成し、ミーティング時に話し合う機会を設ける。（避難経路、優先順位、誰から誘導するかを含め。） ・火災時に備え、必要物品の把握をしておく。	6ヶ月
2	36	職員間で情報を共有し、入居者への関わり方を統一するように心掛けている。だが感情が表に出てしまった対応の時がある。	入居者の思いを十分に傾聴し理解することで、見極めをしっかりともち、プライドを傷つけない配慮 ・対応ができる。	・職員間で指摘しあう場を設け、その様な状況に遭遇した際、職員の関わりを交換するようにする。 ・入居者の日常の会話に耳を傾け、どのような思いなのかを理解する。	6ヶ月
3	21	問題が発生した際には、職員が間に入り仲裁しているが、後に不愉快な思いが残っている場合もある。	問題が起きても、それを後に引きずらない関係作りの支援を行う。	・職員がミーティング時に統一した取り組みや言動について話し合い、その様な状況が生じた際は、互いに納得して頂けるよう心掛ける。	1ヶ月
4	37	集団生活に流されて、個々の希望等を見逃していないか見直ししながら関わる。	・生活の中で表出される、入居者の希望を伺い引き出す取り組みができる。 ・個人の希望が叶えられるように支援する。	・本人の希望に寄り添えるよう、複数の選択肢を提案し決定してもらうようにする。 ・職員同士の情報交換を行いながら、好みや特性を把握する。	6ヶ月
5	34	心肺蘇生法やAED、応急手当、異物除去の講習会を定期的に行っているが、日中、夜間帯とも急変時に対しての対応に不安がある。	日頃から職員間で話し合いを持ち、他ユニットとの連携をとりながら、適切な対応ができる。	・入居者の急変時等に備え、緊急対応マニュアルを作成し、ミーティング時に話し合う機会を設ける。 ・緊急の対応としては、各ユニットに要請しヘルプに来てもらう体制が整っている。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。